

文部科学省委託事業
「学校長期自然体験活動指導者養成研修」

第1回

平成21年8月21日（金）～8月24日（月）（3泊4日）

第2回

平成22年2月18日（木）～2月21日（日）（3泊4日）



I 事業の背景

青少年の成長においては、多くの人や自然と直接触れ合う体験を通じて豊かな人間性を育むとともに、体験的な学習により自ら考え行動する力を育成し、社会的自立の基礎を培うことが必要である。このような観点から、小学校で1週間の集団宿泊体験や自然体験活動を実施するよう提言された。

そこで、自然体験活動の指導者のスキルアップと新たな人材育成が急務であり、知識と技能を備えた指導者確保と指導体制の整備を目的とした本事業を展開することは極めて重要となってくる。

II 事業の概要

1 趣 旨

小学校における1週間程度の長期宿泊体験活動において、教育効果の高い自然体験・生活体験活動の機会を提供するため、プログラム計画立案の助言、活動時の全体指導や活動の様子の把握と助言、事業評価の助言などを行う指導者を養成する。

2 参加対象

自然体験活動の企画・実施にあたる者

- ① 青少年教育者
- ② 学校教育関係者
- ③ 自然体験活動に興味・関心のある者で、学校長期自然体験活動に協力する意志のある者

3 募集人員

第1回 20名（全体指導者）

第2回 30名（全体指導者）

4 プログラム立案上の留意点

全体指導者養成基本カリキュラムに沿って立案

- ① 学校教育における体験活動の意義（2時間）
- ② 教育課程と体験活動の関連性（2時間）
- ③ プログラムの企画立案（5時間）
- ④ 自然体験活動の技術（5時間）
- ⑤ 体験活動の指導法（5時間）
- ⑥ 安全管理（5時間）

（①②は補助指導者養成に対応）

【男女別参加者数】

	第1回	第2回	合計
男 性	10	27	37
女 性	5	18	23
合 計	15	45	60

【所属別参加者数】

	第1回	第2回	合計
教育施設	0	5	5
教育行政	0	5	5
学 校	0	3	3
学 生	3	16	19
そ の 他	12	16	28

【指導者登録別参加者数】

	第1回	第2回	合計
全体指導者	14	42	56
補助指導者	0	2	2
一部履修	1	1	2

5 実施状況・参加者の様子

【第1回研修会】

平成21年8月21日～8月24日

○主題「富士山から学ぶ」

富士登山を用いて体験活動に必要な知識や技術を身につけ、その指導法を学習した。

初めに当所の小学校自然体験活動の実践例の成果を示し、内在する問題点を共有した。その後は富士山麓に学習の場を移し、各種講座を進めた。メインの富士登山の体験では、「高山病」「寒さ」によって登頂を断念したが、危険回避という意味で貴重な体験となった。登山後は千葉大学の明石教授により、体験活動の必要性が熱く伝えられた。

最終日はほうとう鍋づくりを通して野外炊事の体験と体験活動のプログラムとしての位置づけを学んだ。



【体験活動の必要性を説く明石先生】

【第2回研修会】

平成22年2月18日～2月21日

○主題「子どもたちのこころを揺さぶる」



【感性を育てる手法を伝える山田先生】

富士常葉大学の山田教授を招き、4泊5日のコーディネート仕方を学んだ。

「山姥」の物語を導入として用い、プログラムをコーディネートする面白さを身につけるとともに、子ども達に達成感を味わわせる役割が指導者に要求されていることを学習した。演習として、体験学習中のトラブルを想定したケーススタディを「演劇ワークショップ」として創作し、問題を解決する方法を学びあった。

また、振りかえりを野外活動フリーランスの穴澤氏に担当してもらい、山田教授の伝えんとする内容をわかりやすく参加者に伝えることができた。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

新たに58名（補助指導者2名を含む）の登録を完了した。

子ども達に経験させたい自然体験活動を参加者自らが体験を通して学べる企画とした。参加者の意欲的な研修態度を見ると指導者としてのスキルアップにつながったといえる。

2 課題

① 研鑽の場を準備して指導者としてのスキルアップを図る。

② 実際に学校と関わる場の提供ができるようにする。

（できれば、計画・実施・評価の流れに関わるとよい）

③ 手法を豊富に扱くと満足度は比較的高くなるが、企画立案のプロセスや評価の仕方といった部分の知識定着は不十分になるようである。（直後アンケート結果から考察）



担当：企画指導専門職 鈴木 眞成・遠藤 貴光